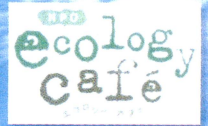


ECOLOGY CAFE

News Letter

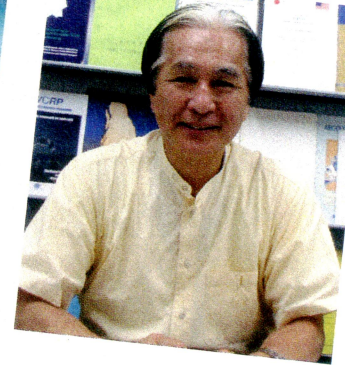


私たちは身近な動植物や生態系の保護及び保全活動を通じ、
多くの人達に環境理解の場を提供することを目的としたNPO法人です。



山形 俊男

エコロジー・カフェ学術フェロー
東京大学大学院理学系研究科教授



Q. 山形先生の研究分野について、読者の方に簡単に教えてください。

半年から数年後くらいまでの短期的な気候変動の予測を中心に研究しています。地球シミュレータというスパコンを活用するなどして大気や海流の動きを計算し、非常に信頼性の高い予測をしています。干ばつや洪水を予測して適切な作付けを行うことは、発展途上国や豪州などの農業国において非常に重大な意味を持ちます。

Q. 先日開催された洞爺湖サミットの環境分野について、感想を聞かせて下さい。

サミットで展示された竹村真一氏の「触れる地球」という作品に映し出される映像を提供しました。サミットそのものは政治的な議論です・・・(笑)。

但し、気候変動と気候変化という二つの概念はしっかり区別しなくてはなりません。サミットで扱われる課題は気候変化 (climate change) です。



「今年は暑いから豚肉の値段が上がるよ」と予測する山形氏

政治的・経済的な要素を組み入れて予想 (projection) する長期的な「気候変化」に対し、私たちの短期的な「気候変動」の予測 (prediction) は数理工学的な計算に基づくサイエンスです。

Q. プライベートで行っているエコ活動などありましたら教えてください。

電気はこまめに消すので研究室員には嫌がられているかも(笑)。それから、東京から少し離れた実家で畑仕事をしているのですが、敷地内の落ち葉を肥料として利用するなどして野菜栽培をしています。鳥が飛んで来たりして季節を感じられ、とてもいいですよ。でも車で行くからあまりエコじゃないかな。まあ、世の中は矛盾に満ちているんですよ(笑)。

また、「もったいない」というのがエコ活動の重要な概念になっているけれど、例えば少し古いだけの冷蔵庫を捨てるのももったいないと思っても、実際には冷蔵庫を新調の方が断然電気代が掛からなくなるんですよ。難しいなと思います。

Q. エコカフェにはどんなことを求めますか？

Good borders make good neighbors という言葉があります。ボーダーレスの時代と言われますが、ボーダーを入れることも大事です。一つの価値観で全てを解釈せずに、普遍的な価値と各地域の文化や歴史とのバランスを取る。エコカフェも、それぞれの地域に合わせた活動を展開し、新たな哲学を作っていくことが重要なんじゃないかな。

Q. 会員の方にメッセージをお願いします。

コアジサシやウミガメの問題のように、日本だけでは解決できないことが多々あります。そういった問題に取り組むためにも、世界を見渡す視点が重要になってくると考えられます。政府が介入すると政治的に紛糾しかねない問題でも、NPOなどが中心となって国際的なネットワークを構築して対処して欲しいと思います。そのためには、一人一人が一つの社会の中に閉じこもらずに他へと目を向けていくことが大切です。

(インタビュー：土岐和多瑠・星野瑞生)